

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 十日町福祉会	代表者	尾身 晴夫	法人・ 事業所 の特徴	十日町市の中心部に位置する事業所の利便性を活かして、街中や地域での行事にご利用者も参加しています。また、地域の人たちが住み慣れた地域での暮らしが継続していくことができるように相談等も受け入れをし、積極的に対応していきたいと思いません。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 事業所三好園四ツ宮	管理者	春川 さとみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	3人	0人	0人	2人	1人	0人	3人	0人	9人

項目	令和6年度の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	令和7年度の改善計画
A. 事業所の自己評価の確認	事業内容について職員が共通理解を持てるよう取り組みます。	事業所内ではケア会議の開催はありました。	職員の回答、意識について個人差があるように感じた。	午後のミーティング時に、ケース会議、利用開始後のモニタリングをプランに沿って確認、評価し、情報の共有、統一した支援を行っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節を感じる環境づくりや、外出機会を多く持ちます。	外出等ができなかったこともあり、室内装飾等で季節を感じてもらえるようにしました。	特にありませんでした。	施設からの情報等を地域への発信を積極的に行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方々から施設を活用してもらえよう働きかけをします。	積極的に地域に出向いたり、発信したりはできませんでした。	職員が地域の奉仕作業に協力していた。	地域行事への参加やボランティアの受け入れで、様々な人から施設へ足を運んでもらう取り組みをする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のイベントの情報収集をし、外出等の企画を定期的に立案、実行していきます。	地域行事には可能な範囲で参加しました。大きな行事のみとなりました。	地域の行事参加は難しそうに感じる。	利用者の地域生活の継続を支えるため、情報収集をし、社会資源等を活用できるよう、連携をしていく。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	地域の情報を得ながら、施設の役割を意識し、地域で活用してもらえるよう取り組みます。	地域の取り組みについて、委員の皆さまから貴重なご意見をいただきました。	事例検討については今後検討していった方が良い。地域の見守りができると良い。	事例検討等を通して地域の情報を得、施設の役割を検討していく。
F. 事業所の防災・災害対策	自然災害時の対策強化、総合防災訓練への参加依頼し、地域との連携、協力体制を作ります。	コロナ禍以降、ようやく地域の消防団へ総合防災訓練の参加を依頼し、意見や助言をいただきました。	この地域自体は防災訓練を実施していない。	防災・災害等を想定した訓練を通し、地域の消防団等との連携を深める。

